

世界を襲うコロナウイルスは

細菌兵器？

今年は正月半ばに風邪をひいて熱を出しました。故に、二十年も続いてきた勉強会を中止にする事態になりました。ご迷惑をおかけしたトータル・ヘルスの会の方々には、心からお詫びいたします。

年を取ると熱は出にくくなると言われますが、39度近くも出て、さすがに体がだるく動けず、失礼をしまいました。ご心配を頂いた皆様には失礼な話かとお詫びいたしますが、いつもの如く吾が頭の中では(新年早々の浄化が起こった。今年はきつと良いことがあるぞ)という想いで、娘とも「これで十歳以上若返った」などと言っておりました。

さてその後、一月末になつて突然のように、中国武漢でコロナウイルスの肺炎で死亡というニュースが飛び込んで来て、あれよあれよと言う間に世界中に広がって猛威を振るい始めています。

ある論者の言葉では、かつて世界を騒がせたエボラ出血熱病、サーズウイルス、(ともにアフリカで発生)等とよく似ていると言っています。もしかして裏で世界を操る集団の、細菌兵器ではないか。

或いは、聖書にある、バベルの塔の如く、人類の傲慢に対する神の御意志の働きではないか、とも言われているのです。

地球温暖化への警告の無視。異常気象を起こし、ハリケーン、巨大竜巻、台風による洪水、停電、巨大森林火災・・・人間の文明科学の力なぞ、何にもならないことを思い知らされていながら、何の反省もない。今の人類は、正に人間の知識こそ(神と同じ)全知全能の如くに思いこんだ、メソポタミヤ(イラクの一部)バビロンの国民と同じく、神の怒りによって罰を受けた人類になっていることに気付かなければならない時ではないでしょうか。人間の利益の為ならば、何をやっても許され

るという状況を、人類の科学技術、文明への過信をしている人間に、今後何が起こるのかを、歴史に学ばなければならないと思うのです。

ミロク下生の世の到来？

戦後の古神道系の教団の話に、「末法末世の時代が来ると、ミロクという救世主(メシア)が現れて世を救う」という教えがあります。

それはキリスト教聖書に666という数字で表されて、不吉な悪魔の数字と言われているです。

ところが日本の古神道ではこれをまったく逆にとらえて、666は(ミロク)であり、369、567(ともにミロクと読む)という数霊として、救世主の下生を意味するということです。このように一見不幸現象と考えることも「禊(みそぎ)」と捉えて、浄化される現象として、感謝するという考え方をします。

ここではつと驚くのは世界に恐怖をばら撒いているコロナウイルスの名前です。誰が名付けたのか「コロナは567」と読めるのです。これは偶然とは思えないのです。正に「ミロクウイルス」と解釈出来るではありませんか。

ゆき過ぎた科学万能と思いがりの人間に、気付きを与えるための大愛である神の御意志ではないか。宇宙の自然を守るための天の仕組みと考えたら、例えば誰かが仕組んだ細菌兵器であろうと、神に使われている人間であり、我々人類にとつては、自らを反省に導く救世主(メシア)の出現と、感謝の波動で捉えたら、ウイルス感染は、いち早く消滅してくれる現象ではないでしょうか。

もちろん感染で苦しめられている人々へのお見舞いの心はいっぱいで、ご回復を日々祈っています。

しかし、ここで先に書きました山本の風邪と想いを同じくして、浄化現象と捉えたら、世界の回復は早いと思われれます。